

- 160.だが謙虚に奉仕するアッラーのしもべたちは、別である。
- 161.だがあなたがたにしても、あなたがたが崇拜するものでも、
- 162.かれに反抗して（信者たちを）誘惑することが出来ようか。
- 163.燃え盛る火で、焼かれる者は別にして。
- 164.（整列している者たちが言う。）「わたしたちは各々定め部署を持っています。
- 165.わたしたちは（奉仕のため）整列して、
- 166.慎んで（アッラーを）讃え唱念します。」
- 167.また、かれらはいつも言っていた。
- 168.「もしわたしたちが、昔から訓戒を持っていたなら、
- 169.わたしたちも、確かにアッラーの謙虚なしもべであったでしょう。」
- 170.ところが（実際にクルアーンが与えられれば）それを拒否する。だが間もなくかれらは知るであろう。
- 171.確かにわれの言葉は、わが遣わしたしもべたちに既に下されている。
- 172.かれらは、必ず助けられよう。
- 173.本当にわれの軍勢は、必ず勝利を得るのである。
- 174.あなた（ムハンマド）はかれらから暫くの間遠ざかって、
- 175.かれらを監視しなさい。やがて、かれらは目覚めるであろう。
- 176.だがかれらは、わが懲罰を急ぎ求めている。
- 177.だがそれが実際にかれらに下ると、それまで警告を受けているだけに寝覚めの悪い朝となろう。
- 178.それであなたはかれらから暫くの間遠ざかって、
- 179.かれらを監視しなさい。やがて、かれらも目覚めるであろう。
- 180.あなたの主、威徳の主、かれらが配するものから（超絶なされる）主に讃えあれ。
- 181.使徒たちに平安あれ。
- 182.万有の主、アッラーに讃えあれ。

## SURA 38.サード章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.サード。訓戒に満ちたクルアーンにかけて。

- 2.いや、信仰のない者たちは、高慢で反抗的である。
- 3.われはかれら以前に、どんなに多くの世代を滅ぼしたことであろう。かれらは、もはや逃れ得ない時となって（慈悲を）請う。
- 4.またかれらは、自分たちの中から警告者が出たことに驚き、不信心者は言う。「これは魔術師です。嘘付きです。
- 5.かれは多くの神々を、一つの神にしてしまうのですか。これは全く、驚きいったことです。」
- 6.そして、かれらの長老たちは立ち去りながら（その場にいた仲間に言う。）「行きなさい。そしてあなたがたの神々を守り通しなさい。これは（一神教の教え）全くの企ら・です。
- 7.わたしたちはこれまでの教えで、こんなことを聞いたことはありません。これは作り話に過ぎません。
- 8.わたしたちの間で、あんな男にだけ御告げが下ったと言うのですか。」いや、かれらはわれの訓戒に、疑いを抱いている。いや、かれらはまだわれの懲罰を味わったことがない。
- 9.それともかれらは、偉力ならびなく、恵・多いあなたの主の、慈悲の宝物を持っているのか。
- 10.かれらは天地、そしてその間の万有の、大権をもっているのか。それならかれらに手だてをさせて、（天の玉座まで）登らせなさい。
- 11.しかしあれは、鳥合の衆で只敗走するばかり。
- 12.かれら以前にも、ヌーフの民、アード（の民）および権勢を張り廻らしたフィルアウンも、
- 13.またサムード（の民）やルート（の民）、および森の民も使徒たちを徒党を組んで嘘付き呼ばわりした。
- 14.（これらは）皆使徒たちを嘘付き呼ばわりし、それでわれからの懲罰が確実に下った。
- 15.これらの者も、かの一声を待つだけである。それには一刻の猶予もない。
- 16.かれらは、「主よ、わたしたちの授かる分を清算の日以前に、急いで下さい。」と言う。
- 17.あなたはかれらの言葉を耐え忍べ。そしてわがしもべである堅固の人ダーワードを思え。本当にかれは、（主の）命令に服して讚美しつつ常に（主の御許に）帰った。
- 18.われは山々を従わせ、かれと共に朝夕に讚美させ、
- 19.また鳥類も、集って、凡てのものが主の命令に服して讚美しつつ常に（主の御許に）帰った。
- 20.そこでわれはかれの王権を強化し、英知と断固たる決断力をかれに授けた。
- 21.あなたは論争者の物語を聞いたのか、人びとが私室の壁を乗り越えて、

22.ダーウードのところに入って来たのでかれは驚いた。かれらは言った。「恐れることはありません。これが訴訟の当事者の双方です。一方が他方に不正を働きました。真理によってわたしたちの間を裁いて下さい。不公平がないように、わたしたちを公正な道に御導き下さい。」

23.「これは、わたしの兄です。かれは99頭も雌羊を持っており、わたしは（只）1頭しか持っていませんでした。ところがかれは、それをも自分に任せなさいと言ったのです。そして言葉巧みにわたしを言い負かせてしまったのです。」

24.かれ（ダーウード）は、「かれがあなたの羊を、取り込もうとしたのは、確かに不当です。本当に共同で仕事をする者の多くは、粟いに侵しあう。信仰して善行に勤しむ者は別だが、それは稀です。」と言った。（その時）ダーウードは、われがかれを試したことを喻り、主の御赦しを請い、礼拝にひれ伏し、悔悟して主の御許に帰った。〔サジダ〕

25.それでわれは、かれ（の過ち）を赦した。かれは（今）本当にわれに近づき、多幸な（悟り切った）帰り所にいる。

26.「ダーウードよ、われはあなたを地上の代理者にした。だから人びとを、真理によって裁き、私欲に従って、アッラーの道を踏はずしてはならない。アッラーの道から迷う者は清算の日を忘れた者で、必ず厳しい懲罰にあう。」

27.われは天と地、そしてその間にあるものを、戯らに創らなかつた。それは信仰のない者の億測である。だが（いずれ地獄の）火を味わう信仰のない者こそ哀れである。

28.われが信仰して善行に勤しむ者と、地上で悪を行う者と同じに扱うことがあろうか。われが（悪魔に対し）身を守る者と、邪悪の者と同じに扱うであろうか。

29.われがあなたに下した啓典は、祝福に満ち、その印を沈思黙考するためのものであり、また思慮ある者たちへの訓戒である。

30.われはダーウードにスライマーンを授けた。何と優れたしもべではないか。かれは悔悟して常に（われに）帰った。

31.（ある日の）黄昏時、駿馬が、かれに献上された時のことを思い起しなさい。

32.かれは言った。「本当にわたしは、（この世の）素晴らしい物をめでて、夜の帳が降りるまで、主を念ずることを忘れてしまったのです。」

33.さあ、その馬を連れて参れ。そしてかれは、馬の足と首を切り落としてしまった。

34.またわれはスライマーンを試し、（病を与え）重態のかれを椅子に据えた。その後かれは回復し、

35.言った。「主よ、わたしを御赦し下さい。そして後世の誰も持ち得ない程の王国をわたしに御与え下さい。本当にあなたは豊かに与えられる方です。」

36.そこでわれは、風をかれに従わせた。それはかれの思うままに、その命令によって望む所に静かに吹く。

- 37.またわれはシャイターンたちを、（かれに服従させた。その中には）大工があり潜水夫もあり、
- 38.またその外に、スライマーンの命令に服さず鎖に繋がれた者もいた。
- 39.（主は仰せられた。）「これがわれの賜物である。あなたが与えようと、控えようと、問題はない。」
- 40.かれは（今）われの近くにおいて、幸せな（悟りきった）帰り所にいる。
- 41.わがしもべ、アイユーブを思い起しなさい。かれが主に向かって、「シャイターンがわたしを悩ませ、苦し・抜いているのです。」と叫んだ時を思い起しなさい。
- 42.（すると命令が下った。）「あなたの足で（大地を）踏・なさい。そこには清涼な沫浴と飲料のための（水）があろう。」
- 43.われは慈悲として、かれに（再び）家族を2倍にして授け、思慮ある者への教訓とした。
- 44.（そして言った。）「一握りの草を手にとって、それで（妻を）打て。あなたの誓いを破ってはならない。」われは、かれが良く耐え忍ぶことを知った。何と優れたしもべではないか。かれは（主の命令に服して）常に（われの許に）帰った。
- 45.またわがしもべの、イブラーヒームとイスハークとヤアコーブを思い起しなさい。かれらは偉力を持ち、洞察力があった。
- 46.われは、かれらが（来世の）住まいを念じているという純粋な（資質）によって（免じて）かれらを清めてやった。
- 47.本当にかれらは、わが目にも選ばれ優れた者であった。
- 48.またイスマーイールとアル・ヤサアとズ・ル・キフルを思い起せ。かれらは皆優れた者であった。
- 49.これは一つの教訓である。本当に主を長れる者のためには、幸せな帰り所がある。
- 50.（それは）永遠の樂園であり、その凡ての門はかれらのために開かれる。
- 51.その中でかれらは（安楽に寢床に）寄りかかり、沢山の果実や飲・物<sub>エ</sub>、望・放題である。
- 52.また傍には、伏し目がちの同じ年頃の（乙女）が侍る。
- 53.これらは清算の日のために、あなたがたに約束されるものである。
- 54.本当にこれは、尽きることのない（あなたがたへの）賜物である。
- 55.（主を畏れる者は）このようである。だが反逆の徒には、悪い帰り所があろう。
- 56.それは地獄である。かれらはそこで焼かれよう。何と悪い臥所であろうか。
- 57.（実に）これは、こういうことだがかれらは煮え立つ湯と膿を味わされ、

- 58.その外、これに類する（懲罰）をとり合わせて受けることになる。
- 59.これはあなたがたと一緒に、むや・に突き進む一群である。かれらには歓迎の言葉もない。火獄で焼かれるだけである。
- 60.かれらは（火獄の仲間のかれらの指導者たちに）言う。「いや、歓迎されないのは、あなたがたです。わたしたちのために、こう仕向けたのはあなたがたです。何と悪い住まいに来たものでしょう。」
- 61.するとかれらは言う。「主よ、わたしたちをここに連れて来た者には、火獄で倍の懲罰を御加え下さい。」
- 62.かれら（火獄の仲間）は言う。「わたしたちが悪人の中に数えていた人びとが見えないのです。どうしたのでしょうか。」
- 63.わたしたちが嘲笑していた者（が見えない）。かれらは、（わたしたちの）目をくらませたのではないのでしょうか。」
- 64.本当にこれは真相で、火獄の仲間の論争である。
- 65.言ってやるがいい。「わたしは警告者に過ぎない。唯一の方、抵抗出来ない方、アッラーの外には神はないのである。」
- 66.天と地、そしてその間の万有の主、偉力ならびなく寛容であられる。」
- 67.言ってやるがいい。「これは至高の知らせである。」
- 68.あなたがたは、それから背き去るが。
- 69.且つて（天使の）高い位階の者たちの論議については、わたしは何の知識もなかった。
- 70.これがわたしに啓示されたのは、只わたしが公明に警告するためである。」
- 71.あなたの主が、天使たちに、「われは泥から人間を創ろうとしている。」と仰せられた時を思え。
- 72.「それでわれが、かれ（人間）を形作り、それに霊を吹き込んだならば、あなたがたは伏してかれにサジダしなさい。」
- 73.そこで天使たちは、皆一斉にサジダしたが、
- 74.イブリースだけはそうしなかった。かれは高慢で、信仰を拒む者となった。
- 75.かれは仰せられた。「イブリースよ、われの手ずから創ったものにサジダするのに、何があなたを妨げたのか。あなたは高慢なのか、それとも高い（偉力ある）者なのか。」
- 76.かれは申し上げた。「わたしはかれ（人間）よりも優れています、あなたは火でわたしを御創りになりましたが、かれは泥で創られただけです。」

- 77.かれは仰せられた。「それならあなたは、ここから出て行きなさい、本当に忌まわしいから。
- 78.そしてわれからの見限りは、審判の日まで必ずあなたの上にある。」
- 79.かれは申しあげた。「主よ、かれらが呼び起こされる日まで、猶予を願います。」
- 80.かれは仰せられた。「あなたを猶予しよう。
- 81.定められた日時まで。」
- 82.かれは申しあげた。「それでは、あなたの御威光にかけて誓います。わたしはかれら（人間）凡ての者を誘惑します。
- 83.かれらの中の、あなたの謙虚なしもべを除いては。」
- 84.かれは仰せられた。「それは真実である。われからも真実を言う。
- 85.われは、あなたとあなたに従う凡ての者で、地獄を満たすであろう。」
- 86.言え、「わたしはこの（クルアーン）  
に対し何の報酬もあなたがたに求めない。またわたしは偽善者ではない。
- 87.これは諸民族に対する訓戒に外ならない。
- 88.時が来たら、あなたがたはそれが其実であることを必ず知るであろう。」

## SURA 39.集団章〔アッ・ズマル〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.この啓典の啓示は、偉力ならびなく英明であられるアッラーから（下されたもの）である。
- 2.本当にわれは真理によって、あなたにこの啓典を下した。それでアッラーに仕え、信心の誠を尽せ。
- 3.信心の誠を尽して仕えるのは、アッラーに対し当然ではないか。だがかれを差し置いて（他に）保護者を求める者は、「わたしたちがかれら（神々）に仕えるのは只わたしたちがアッラーの御側に近づくためである。」（という）。本当にアッラーはかれらの異なる点について、必ずその間を裁決なされる。アッラーは、虚偽で恩を忘れる者を御導きになられない。
- 4.アッラーが子を持つと御望・なら、御自分の創られるものの中から、望・の者を選ばれる。かれに讃えあれ。かれはアッラー、唯一にして（万有の）征服者である。
- 5.かれは真理をもって天地を創造なされ、夜をもって昼を覆いまた昼をもって夜を覆わせ、太陽と月を服従させてそれぞれ定められた周期に運行させる。本当にかれは、偉力ならびなくよく赦される方である。